

# 実行委員会のあゆみ

事務局 田島真実

## ■ 最初の課題 —事務局の立ち上げ

豊田にフォーラム開催の話が舞い込んだのは開催2年前。そのときにまず直面したのは、事務局を受けることができる団体がないことでした。無償ボランティアで市民活動を続けている方々も多い中で、有給の事務局を立ち上げるところからのスタートはなかなかハードで、事務局とはなにか？必要なのか？と聞かれることもありました。

事務局立ち上げの話がまとまったのは開催まで1年を切った2023年1月頃というタイミング。今回、行政との共催により事務局費が確保できていたことで、3名の事務局体制で動き出すことができました。

## ■ 豊田の特徴「形のないネットワーク」 —実行委員会の立ち上げに向けて

豊田には、子どもを柱とした中間支援団体や市民ネットワークのようなものもありませんでした。しかし、「おやこ劇場」や「もりのようちえん」など、同じ子育て・子育て背景を持つママたち・子どもたちはたくさんおり、そこから派生し、それぞれが「性教育」「居場所」「プレーパーク」などのテーマに枝分かれし、活動を深めていました。

現在は違う活動を主軸に置いても、根っこにある子どもへのまなざしが共通していて、個々に顔が繋がっている。形式こそないものの、ネットワークのようなものはぼんやりと存在していました。ただ、仕事や“市民活動として”という意識より、自分や家族の困りごとからの小さな地域単位での活動がメインなので、社会課題という意識は希薄で、全国規模のフォーラムにも参加したことがなかったり、実行委員会という組織のイメージが沸かなかったりという状況でもありました。このような背景を踏まえ、実行委員会を立ち上げるにあたり、実行委員会立ち上げ説明会を実施し、今まで開催されたフォーラムの説明と、今回の豊田実行委員会が目指すものの説明、そこに対して賛同団体を募る形をとりました。呼びかけの期間が1～2か月と短かったこともあり、呼びかけられた団体は多くはありませんでしたが、フォーラム当日までに輪が広がっていればいいという気持ちで、まずスタートを切ることにしました。

## ■ 団体での参加を呼びかけた意図

「個人で」フォーラムに協力したいという声はたくさんある中で、「団体で」実行委員構成団体になってもらうことに重きを置いたのも、個々・小さい単位での活動が多い豊田だからこそ、団体同士でつながることを意識してほしいという狙いと、団体の理念やビジョンを子どもの権利条約と照らし合わせることでもう一度自身の活動の意味を意識してもらい、その団体理念をフォーラムに還元してほしいという意図がありました。

## ■ 実行委員会立ち上げ説明会

2023年2月9日(木) 13:30~15:30 実行委員会立ち上げ説明会

対象:豊田市近郊の市民団体に声掛け

出席団体:21団体

内容:子どもの権利条約フォーラムの主旨説明、事務局の紹介、実行委員会団体募集の説明、フォーラム後に目指すものについて など

## ■ 実行委員会の進め方 ーチームに分ける意味

約50名の実行委員が集まりましたが、大きなフォーラムや実行委員会形式の経験が少ない今回のメンバーにとって、「実行委員会とは…?」という状態の人は多かったと思います。その状況でポイントになるのは、「できるだけ多くの人が、いかに早い段階でフォーラムを自分事ととらえるか」だと感じました。そこで、全体の決裁権は実行委員会に置きつつも、大きく4つの内容に分け、チームにある程度の裁量を持たせて活動を進めることを事務局から提案しました。

	A.全体	B.分科会	C.お楽しみ・その他	D.子どもの参画検討
内容	全体構成やフォーラムの骨子、大プログラムの企画提案	分科会の企画提案	小プログラム／隙間プログラムの企画提案	子どもがどのようにフォーラムに参加できるかを検討／子どもの声をフォーラムに反映させる
実際に担当したプログラム	全体会 クロージング大会 テーマ みんなの○○ツリー	分科会	出張! プチ・プレーパーク おやこであそぼう! ほっとスペース ゆかいにどんちゃか 大道芸	子ども発企画 (子どもに関わる場面)

## ■ ミーティング 実行委員会／事務局MTG／リーダーMTG／チームMTG

月1回の実行委員会では、フォーラムの方向性や予算的な話、情報共有を中心に進め、また、各チームからの提案に対し意見交換し、承認をとっていきました。

週1回の事務局MTGでは、実行委員会などあらゆるMTGの議題整理を行ったり、必要な事務処理や資料作成、何か起きたときにその対応を議論したりするなど、実務的な動きをできるだけスピーディーにこなしてきました。

リーダーMTGでは、各チームを横断して話し合いが必要な場面があったとき(予算の調整や使用する部屋の調整など)に、臨時で各チームの代表が集まり話し合いました。

チームMTGでは、担当の詳細を詰めていく作業をしていきました。各チームの担当内容などによって、開催頻度や雰囲気、チーム内での進め方が異なり、それもととも面白いところでした。

全体を通して、「どこまでがチーム裁量なのか」「誰が最終決定するのか?」「それは事務局からの提案なのか?決定事項なのか?」などの線引きが非常に難しくもありました。



## ■ 効率より大切なもの —150名のサポーターの巻き込みを通して

今回、事前準備や当日にフォーラムを支える役割を担うボランティアさんを「サポーターさん」とし、広報とよたやSNSなどを活用して広く公募しました。効率よく進めるためには、業者への外注なども考えられましたが、あえて手間のかかる「サポーターさん」とのつながりを求めたのは、フォーラムを通してたくさんの人と出会うつながって、フォーラム後につなげていきたい、という思いがあったからです。また、フォーラムの運営に近い部分にたくさんの人を巻き込んでいくことは常に意識していたので、その一つの方法でもありました。

事務局に余裕があれば、もっとうまくサポーターさんを巻き込み、サポーターさんと実行委員との交流の場をつくるなどをしたかったのですが、それでも、実行委員構成団体の関係者に加え、友人知人、その他関心を寄せてくださる団体個人のおよそ150名ものサポーターさんが集まり、事前説明会・顔合わせなども行い、知恵と力を出し合えました。この大きな力は、今後の豊田の市民活動のカギとなると思っています。

## ■ 事務局から見た、2023inとよたの実り

### —フォーラムを身近なものに

最後に、今回の豊田開催の特徴と実りを簡単にまとめておきたいと思います。

- ①子どもの参加の形が様々だった
- ②サポーターさん(ボランティアさん)の関わりが多かった
- ③分科会開催数が過去で一番多かった
- ④行政との連携が強固だった
- ⑤主婦・ママの実行委員参加が多かった  
(これらの結果として、⑥一般参加者が多かった)



実行委員会の運営を進める中で事務局として力及ばずの場面は多かったものの、意図的に取り組んできたこと・仕掛けたことが少しでも形になり実を結んでいるのだと実感できます。

日々迷いながら、事務局も実行委員もおそらくほとんどすべての人が手探り状態の中で、子どもの権利を「いかに身近なものにできるか」という点を追求していたのが豊田の特徴でした。「我が子や我が子の友だちを気軽に誘いたい」そんな声から生まれた企画もいくつもあり、まさに市民の手による市民のためのフォーラムだったと思います。また、一人ではできないことを、たくさんの人とのつながりや出会いで、諦めず、支え合い、時に涙を流しながらも挑戦をし続けた2023inとよた実行委員会でもありました。本当に本当に素晴らしいチームでした。

# 子ども参加のあゆみ

全体会担当：磯村美沙希  
子ども発企画担当：黒柳佐智代  
担当事務局：田島真実

## 【子ども参加のはじまり】（田島真実）

### 子どもとのあゆみのはじまり

今回の子ども参加は「子ども実行委員会を立ち上げない」という異例の宣言からのスタートでした。理由は様々ありますが、「子ども実行委員会を支える大人の体制が整っていない」という悲しい大人の都合もその一つでした。（土日や夜に対応可能な事務局がない・運営できる人材がない）

### 子どもたちの声上がる

まさかの宣言をした大人に対し、豊田の子どもたちは早々に声を上げました。「まず、私たちの声を聴かないのか」「子どもの権利の話をするのになぜ自分たちが置き去りなのか」

豊田で地道に子どもの権利を伝える活動をしてきた方たちの種が芽吹いた瞬間だったと思います。この声に背中を押される形で、まず、「フォーラムにどう子どもが参加できるか、みんなの声を聴かせてほしい」という目的で、ワークショップを開催しました。

### 子どもの声を聴くワークショップ

2023年4月1日(土)2日(日)の2日間、知っている子などを中心に集ってもらい、簡単なゲームやワークを通して、参加者として来場したくなるアイデアや、運営する側としてやってみたいことなどを聞きました。ここで集まった声ベースとなり、様々な企画が立ち上がっていきました。

### 様々な入口から参加できるように

豊田開催の子ども参加の最大の特徴は、子ども参加の入口が一本でないことだと思います。このことは、実行委員会でも意識し大切にしてきたことです。「意見表明には様々な形がある」「意見を発表できる子だけが参加できるフォーラムにしないために」このような議論が深められ、多様な参加の形が叶いました。どの内容・企画も子どもと共に考え、歩みを進めていきました。

### 子どもたちの参加の形

#### <全体会>

- チーム司会(原稿作成から担当)
- 影アナウンス(原稿作成から担当)
- 舞台裏スタッフ
- 豊田市少年少女合唱団(合唱)
- ようこそ豊田ムービー(提案と作成)
- 歌プロジェクト(歌・動画作りと歌唱)
- 親しむムービー(作成と出演)
- 全国の事例発表
- パネルディスカッション
- エンディング(ピアノ伴奏・手話と歌唱)

#### <子ども発企画>

- あつまれこどもたち(実行委員会募集の子たち)  
(8回の事前準備と当日の運営)
- 子ども委員(豊田市子どもの権利条例に基づき  
開催される子ども会議の子たち)  
(7回の子ども会議での事前準備と当日の運営)
- 当日のみ参加の公募子どもスタッフ

\*その他、当日サポーター、一般参加者など、  
様々な参加の形がありました。

---

## 【全体会担当】（磯村美沙希）

---

### ■ 子どもたちとともに創る現場

---

全体会では、当事者である子どもたちを置き去りにしないという意味のもと、「子どもの声からはじめよう」を合言葉のようにして進めてきました。また、どの時間においても子どもの存在が感じられるよう意識しました。

舞台上、受付、舞台裏などすべての場所に子どもが関わる役割を設け、大人も子どもも一緒になって「全体会」という場を創りあげられる環境設定をしました。

### ■ 生身の子どもの「<sup>こゑ</sup>聲」で伝える

---

子どもの存在を重視するといっても、カテゴライズされ形骸化した「子ども」像ではなく、目の前の生身の子どもを感じてほしい。そこで、事例発表やパネルディスカッションといった通例のプログラム以外にも、オープニングや休憩明け、エンディングに子どもたちが舞台上で演じる時間を設けました。

演じる以外にも司会・影アナウンスなど来場者に生身の「聲」で場を仕切る役割や、受付で来場者と直接対面する役割を子どもたちにも担ってもらいました。

### ■ 能動的参加であること

---

子どもの参加において重要視したのは、彼らが能動的に役割を担っていることでした。したがって参加は公募制としました。また具体的な内容は、コミュニケーションを取る中で顕現した個性や能力が活かせる形、あるいは本人の希望が叶う形を、保護者の協力も得ながら、それぞれの子と模索して決めていきました。

### ■ 権利を大前提とした関わりと信頼関係

---

今回参加した子どもたちとは、普段以上に子どもの権利を意識して関わりました。その上で感じたのは、権利を大前提に関わることで、子どもたちとの信頼関係がより構築されやすいという事。また信頼関係で成り立つ場は、いっそう子どもたちがほんとうの声を発しやすいという事でした。

フォーラム全体会への「あたたかかった」という評は、「聲」を発する子どもたちと、子どもの権利をベースに「声」を聞こうとする大人たちとの信頼関係の賜物ではないでしょうか。

---

## 【子ども発企画担当】（黒柳佐智代）

---

### ■ あつまった子たちとの関わり

---

子どもたちの「やってみよう!」「自分たちにもできるんだ!」を表現する場として、フォーラムに参加したい子を募集しました。どのような子が集まるか分かりませんでしたが、大人が先導する形ではなく、子ども主体でやりたいことを実現する伴走者として、私たちは子どもたちとともに歩いていく決意をしました。

フォーラムの場で子どもたちがしたいことを実現する意味を、子どもたち自身が意識するために、子どもの権利条約かるたで遊んだり、絵本を読んだり、子どもの権利の話をつなぐこともしていました。

集まった子どもたちは、積極的に意見を言う子もいれば、ほかの子の発言を待つ子、聞けば自分の思いを発する子など、さまざまな表現の仕方をする子どもたちでしたが、どのようなあり方でもいいという空気を大切に、それを心地よいと感じた子たちが集う場だったと思います。

### ■ 大人スタッフの迷い

---

どのようなあり方でも大丈夫とはいえ、フォーラムの期日があり、会場をあらかじめ用意し、一般のお客さんにむけて告知をしていくわけですから、思いを具現化する必要があります。段取り良く、先を見通し、手際よくする必要はないとしても、結局、何もなかったということになってもいいのか？

当日慌てる状況でもいいのか？大人は当日までにどのように関わっていけばいいのか？それが、大人スタッフにのしかかってくる難しいところでした。大人スタッフはミーティングを重ねては、何を子どもたちに問いかけ、提案し、ゆだねていくのか？をその都度確認し合いました。

一方で、子どもたちに対しては、提示されたことを子どもたちが受け身でこなすのではなく、自分は何をどうしたいのか？を常に考えてもらえるような進行に努め、一つ一つの意見をどれも大切に扱うようにしていきました。ただ、対話に時間をかけるとしても、それがその時のその子たちにとって最善の時間の使い方なのか、大人の自己満足になりはしないかも議論がありました。

事前準備の段階では、他の用事等で子どもたちの欠席も多く、当日までに準備できるかが心配になることもありました。それでも、もう少しでフォーラム当日だと見通せるころになると、子どもたちの動きや目の輝きは増してきて、ただひたすらにゴールを見据えて準備はペースアップしていきました。

## いよいよ当日

準備は間に合い、当日はお客さんを待つばかり。子ども会議の子たちと一緒に会場を盛り上げ、自分自身も楽しみながらお客さんと接する様はとても頼もしく、フォーラム終了後に集まった子たちの表情は皆やりきった様子に見てとれました。

### 【あつまれ子どもたち】活動の記録

#### 第1回兼説明会 7/25(火)10:00～12:00

- フォーラムとは
- 今回できること、できないことの提示
- 自分がやってみようことを考える
- チームに分かれてみる
- グランドルールの確認

#### 第2回 8/2(水)10:00～12:00

- 子どもの権利とは（絵本、かるたなど）
- やりたいことの見直し
- やりたいことがどんな権利に当てはまるか考える
- メインでやりたいことの計画を立てる

#### 第3回 8/9(水)10:00～12:00

- チーム別活動（チームを作る、計画をたてる、予算の検討など）

#### 第4回 8/23(水)10:00～12:00

- 目標の設定（何人来てほしい？誰に来てほしい？何を感じてほしい？）
- 目標達成のためにやることを考える
- チーム別活動（必要備品についてなど）

#### 第5回 8/30(水)10:00～12:00

- 大人実行委員会の進捗報告
- 目標達成のための広報の活動
- 大人実行委員会への提案について（スタッフTシャツの提案）
- 豊田市子ども会議の進捗報告
- チーム別活動

#### 第6回 9/24(日)10:00～12:00

- 子ども発企画ゾーンの名前決め
  - チーム別活動／広報の活動
- 13:00～15:00（任意参加）
- チーム別活動／広報の活動

#### 第7回 10/15(水)14:00～16:00

- 全体での活動
- チームで必要なものの確認
- 当日大人スタッフの必要人数の確認
- チーム別活動

#### 10:00～12:00（任意参加）

- チーム別活動／広報の活動

#### 第8回 11/3(水)14:00～16:00

- 当日パンフレットの最終確認
- 当日の備品の確認
- チーム別活動／広報の活動

#### 10:00～12:00（任意参加）

- チーム別活動



### あつまれ子どもたちの子どもたち

清水幸敬、宮田泰朋、宮田祥寧、三宅こころ、伊藤佳祐、葛山咲彩、小松穂乃、伊藤颯恭、今井環奈、沖野麗海、新徳隼士、鈴木千世、鈴木頼志、西田結晴、森田結衣、八木優衣、築瀬結理、山田愛來

# 子どもの声

ぼくは、あらしのない世の中になってほしい。大人だけがよければいいと言うことではない。  
大人の権利フォーラムもやりたい。  
(子どもから見た大人と大人からみた子ども)

## チーム司会(全体会)

フォーラムに参加する前は、子どもの権利なんて知らなかったなあ。参加してみて、少しだけ分かったかなー😊司会する前はドキドキー！でも、終わったあとはね、楽しかったなあって💡ちゃんとした場所でマイクで話して、手話して、歌えて、楽しかったし、伝えることが嬉しかった♥

- 知ってるから遊びへ
- フォーラムへ参加する前は、大人よりも自分が年が小さいから逆らっちゃダメっていう気持ちがあったけど、フォーラムに参加したら、そういう気持ちが無くなった。
- 次に企画するとしたら、物当てゲームとか、絵が好きな友達を見つけて、しゃべったり遊んだりしたい。

フォーラムに参加して色々なことが出来て楽しかったです。  
子どもの権利条約が今までよりもっと知って学べたことが良かったです。自分の住む街にも子どもの権利条例やこども会議をつくりたいです！

## 裏方スタッフ(全体会)

改めてこどもの権利が守られている場所は少ないなあ、と思いました。  
実際企画中に見ていた事なんですけど、大人の権利とこどもの権利もどちらも重視しながら進めていくのはなかなか難しく、進行をしながら権利のことを再確認したりと、その場でも今だれかの権利が守られたな、と思ったりする瞬間も感じられました。

## 影アナ(全体会)

フォーラムの為に色々な人達が動いていることに驚いて、改めて凄いなと思いました。色々な方たちが一生懸命子ども達のために動いているのが目に見えて分かって嬉しかったです！1つ感想とは違いかもかもしれませんが子ども実行委員会に行っていた時にいっぱいお話ししたりする子がいて「あの子は絶対グレーゾーンだよ」と言ってるのが聞こえて凄く悲しくなりました。子どもの権利の為に集まりのはずなのに下げた言い方をしているように感じました。私もその場でなにか言おうかと思ったのですが言えずにいたのでこの場を借りて書きました🙏

### 歌プロジェクト(全体会)

子どもたちが出てくる場があってとてもよかったです。  
またじかいのフォーラムでは色々な子どもたちがスピーチをする場があるといいと思います。

命をかけて作った歌をフォーラムでお届けできて本当によかったと思っています。  
次回のフォーラムでは、出演することもたちにも(歌ができたきっかけなど)簡単なインタビューをする機会があるといいなと思いました。

プロジェクトの皆さんと曲を作り上げて行くにつれて、それぞれの「本当の姿」が見れた気がして、そこで感じたものを意識して作りました。  
この子どもの権利条約フォーラムで、同じような毎日を過ごしていても、少しずつ自分も周りも変えているという事。そして良くも悪くも自分次第で変化させることができるという事を実感しました。この関係をここで終あらずに、沢山関わり合いたいと思います。

### 1日目に当日スタッフとして入った高校生(コンサートホール)

権利のことを聞いたあの場所は、みんな優しいと感じた。今は権利がある世界だけど、優しい人だけだったらない世界の方が幸せなのかな。  
助け合ったり、教えてもらったりが当たり前になって、「権利」という言葉はないけれど、自由な世界。

子どもたち中心で計画などしてとても楽しかったです!

子ども祭企画の小学生

### 分科会に参加した高校生

11月のフォーラムで参加させていただいた講座は、私にとってとてもためになるものでした。  
私が育った環境は心理的虐待が強い家庭だったのですが、貴団体のような方が通っていた学校に来て講座を開催して下さっていたら、あの日々とは違った日常を過ごせていたのかなとぼんやり考えていました。  
ですが過去を変えることはもちろんできないので、過去の傷を癒しつつ今の私にできることを探してできる範囲で実行できる福祉の仕事に就きたいなと改めて思うことができました。  
私は、今の子ども達が脅かされる可能性のある出来事について、もっと知りたいと思っています。  
また、私にできることがあるのなら活動に何らかの形で参加させていただいたらとても嬉しく思います。

# 行政との共催について

副実行委員長／事務局長 安藤順

本市における最大の開催価値は、フォーラムとその準備期間をきっかけに、子どもの権利擁護と権利保障に関する市民活動が長期的に促進されることだとまず考えました。そのためには支えとなる行政との協力体制が不可欠なのですが、今回のフォーラムは、招致の<sup>かぶらや</sup>鎬矢を放ってくれたのが豊田市役所次世代育成課(現こども・若者政策課)でしたので、たいへんスムーズな滑り出しでした。プレフォーラムを含めて潤沢な負担金支出を約束してもらえたため、私たちは安心して船出できたのです。

また、愛知県下で最初に子ども条例を制定し、条例を根拠として設置された子どもの権利相談室(こことよ)、子どもの権利擁護委員制度を持ち、こども園、小・中学校にて市が作成した子どもの権利学習プログラムを用いた授業を拡充しようとする市の取り組みについて、じっくりとお話を伺う機会にもなりました。市側も「こんな市民たちがいたのだ。」という発見があったのでは、と思います。

約2年間にわたる開催準備において、市と市民の間で意見や見解の相違が生じる案件が無かったわけではありませんが、常に対話して解決するように互いに努めていたと思います。

特に実行委員会が立ち上がったからは、所属の垣根を越えて手を繋ぐことができました。幕を閉じるまでの長い間、市役所の皆様に丁寧に寄り添っていただいたことに、深く感謝します。

同時に、子どもを含めた市民が「充足していない。」と感じる市の取り組みについて、なぜそうなるのか、背景のようなものが透けて見える時もあり、市民の声、役割がますます重要だということも痛切に感じました。自治体における「子どもの権利保障と擁護が充足しているのかどうか」を、第三者が評価し、その評価を施策に活かしていく流れを作るためには、市民の後押しが必要だからです。

豊田市子ども条例では、第6章にて「子どもに関する施策の推進と検証」についての言及があり、「子どもに関する施策の実施状況を検証する」ため「子どもにやさしいまちづくり推進会議」を置き、

「市長その他の執行機関の求めに応じ、次のことを調査したり、審議したりします。」と書いてあります。

次のことは、(1)子ども総合計画に関すること。(2)子どもに関する施策の実施状況に関すること。(3)その他子どもにやさしいまちづくりに関すること。の3点です。また、「推進会議は、必要があるときは自らの判断で、子どもにやさしいまちづくりに関して、調査したり、審議したりでき」、「必要に応じて、委員以外の人に出席を求め、意見を聴くことができ」、「その結果を市長その他の執行機関に報告し、提言し」、「市長その他の執行機関は、推進会議から報告や提言を受けたときは、その内容を公表し」、「推進会議の報告や提言を尊重し、必要な措置をとります。」と書いてあります。委員とは「子どもの権利、福祉、教育などに関して知識や経験のある人、豊田市子ども会議の代表者、市民及び事業者のうちから、市長が選びます。」と書いてありますから、「子どもにやさしいまちづくり推進会議」は、子どもに関わる人たちが子どもの尊厳を大切にしたい仕事ができているか、有識者らと市民がモニタリングしバックアップできるよう促す大変重要な仕組みで、この部分が豊田市子ども条例の「核」であり「肝」と言っても過言ではありません。過不足を気づかせてくれる存在=クリティカル・フレンドが互いに必要なのです。

「単なるアリバイづくりになっていないか?」「年にほんの数度の会議のみで役割を果たしているのか?」「仕組みが存在すること自体に満足していないか?」「画竜点睛ではないか?」「仏作って魂入れずではないか?」「他にも手段はないか?」といったことを私たちは常に問い続ける必要があります。

「充足」できていない部分があることを素直に認めて、真摯に取り組むタイミングが訪れました。フォーラムの準備を通じて「子どもの権利」「チャイルドライツ」という「共通言語」を手に入れた行政と私たちなら、躊躇することなく、着手できるはずです。

# 豊田市担当者からの言葉

## 市民のみなさんと共に歩んだ日々を振り返って

こども・若者政策課長：宇佐美由紀 同副課長：渡邊薫  
担当者：矢藤亜矢子、酒井美輝、秋田真由

### 【こども・若者政策課長】

平成19年に豊田市子ども条例を制定して以来、初めて多くの市民団体の皆さんとの連携となりました。機運醸成のためのプレフォーラムの開催、子どもの権利に係るコンテンツの豊かさ、多くの参加者に驚くとともに市民力を実感しました。今回のフォーラムを機に、市民団体と行政の共働による子どもの権利を軸とした子どもにやさしいまちづくりを進めていきたいです。

### 【担当者】

■市民が主催する全国規模のフォーラムは豊田市としても初めての取組であり、当初は、準備委員会、実行委員会のあり方やそこへの市としての関わり方がつかめず、気持ちがすれ違うこともあったと思う。しかし、数回のプレフォーラムや実行委員会の開催準備を経て、次第に事務局を中心に実行委員会の方々とも信頼関係が芽生え、「子どもの権利」をより多くの人に浸透させたいという共通の目的の元で、協力し合える体制ができていったと思っている。

■市民活動団体と行政は、時に互いの立場の違いから、意見のすり合わせが難しいこともあるが、今回実行委員会のみなさんとは、互いの立場を超えて、子ども観を共有したり、本音で意見交換をしたりする場面を通じて、信頼関係を築いていくことができたと思う。そうしたことができたのは、実行委員会のみなさんが行政の担当者である我々を、立場を気にせずに仲間として受け入れてくれたからだと思っている。

■結果として、市民活動団体の良い面と、行政の良い面を生かし合ってフォーラムが実施できたように感じる。実行委員会のみなさんには本当に感謝しかないとと思っているし、これを最後にせずに、今後も豊田市の子どものために一緒に取り組める部分は取り組んでいきたい。

## 今後のうごき



事務局 田島真実

フォーラムの開催を経て、豊田にはたくさんの財産が残りました。実行委員は、毎回の実行委員会で顔を合わせるたびに深め合える関係ができていき、また、行政の担当者の方たちの伴走のおかげもあり、大きな催しをやり遂げるためのノウハウの学びの機会にもなりました。

分科会開催団体やその他関係団体、一般参加者、サポーター(ボランティア)さんたちからは「同志がたくさんいる」「こんなに素敵な活動をしている団体がいたんだ」という声もたくさん聞かれました。きめ細やかで、ときにデリケートな活動をしていると、孤独になり力尽きそうになることがあると思います。そんな時に出会える同志や学び・気づきは、大きな力になります。また、少人数ではなしえないことも仲間が集まれば大きな力になります。

2024年2月4日の「フォーラム振り返り会& 今後は語る会」では、多くの参加者からフォーラムのような機会や、様々な団体・個人が集う交流の場が必要、という声がかかれ、熱気と温かさに包まれた会となり、今後、豊田でもネットワークづくりや交流会、地域版フォーラムの開催などの機運の高まりを感じました。(具体的な動きに関しては、現在、有志が模索中です)

# アンケート結果

フォーラム1日目、2日目、共に来場者にアンケートを実施しました。

## 【アンケート分析を行って】特筆事項

### ①所属について

例年、参加者はNPO、NGO、市民団体関係者の割合が大きいと考えられるが、今年は両日とも「その他」の割合が非常に高い。その理由として、実際は市民団体の一人として活動しているが、普段の生活の一部となっているため、所属として「市民団体」という認識が薄かったのではないかと推測できる。これは豊田の一つの特徴でもある「仕事として」や「社会課題に向き合っている」という組織だった団体が少なく、個人レベルで困りごとに向き合う小規模な活動が多いことの現れと思われる。所属に関する選択項目を増やすなどの配慮が必要であった。

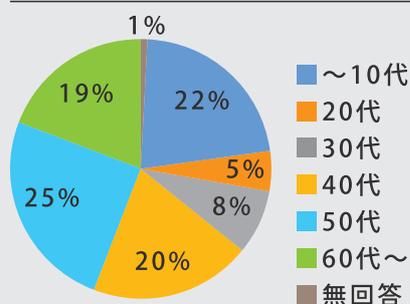
### ②参加した／印象に残ったプログラムについて

「プチプレパ」「ほっとスペース」「大道芸」「子ども発企画」(略称)の数値が低い。会場が本会場と離れて野外であったりフラッと参加したりした方が多いプログラムであったこと、そして子どもへのアンケートを促しにくい環境であったため、上記プログラムへの参加者がアンケートに回答していないのではないかと考えられる。

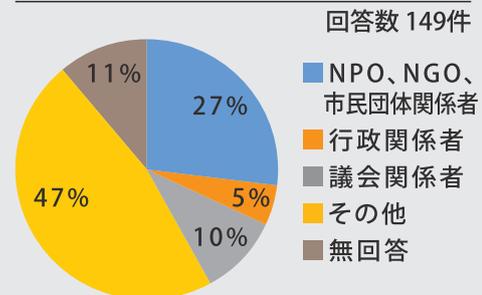
## 1日目

回答数 166件

設問1-①. ご自身についてお聞かせください。(年代)

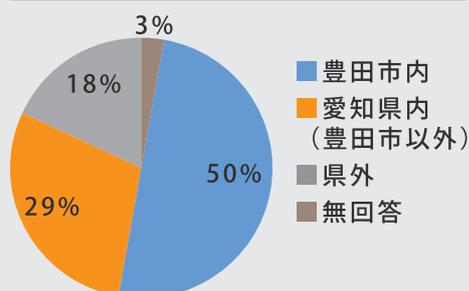


設問1-②. ご自身についてお聞かせください。(ご所属)

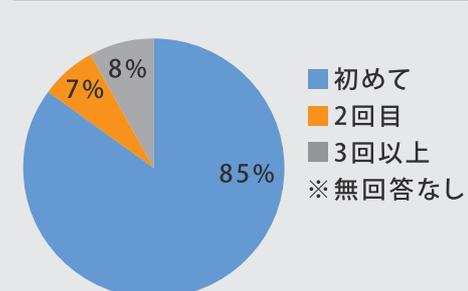


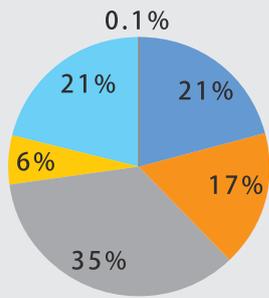
\*1日目オンラインアンケートフォームに設問を入れ忘れたため、この設問のみ回答数が少なくなっています。

設問1-③. ご自身についてお聞かせください。(居住地)



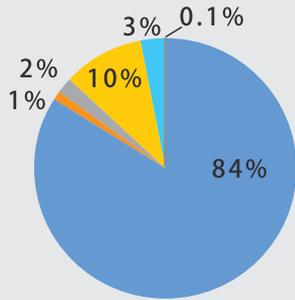
設問1-④. 子どもの権利条約フォーラムには何回目のご参加ですか？





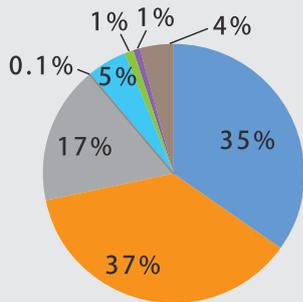
設問 1 - ⑤. 今回のフォーラムに参加したきっかけは何ですか？

- 知人に紹介されたため
- 職業上の必要性を感じたため
- 子どもの権利に関心があったため
- 楽しそうだったため
- その他
- 無回答



設問 2 - ①. 参加されたプログラムを選択してください（複数選択可）

- 全体会（現地参加）
- とよたの名産品
- 全体会（オンライン）※無回答なし
- ほっとスペース
- プチプレパ

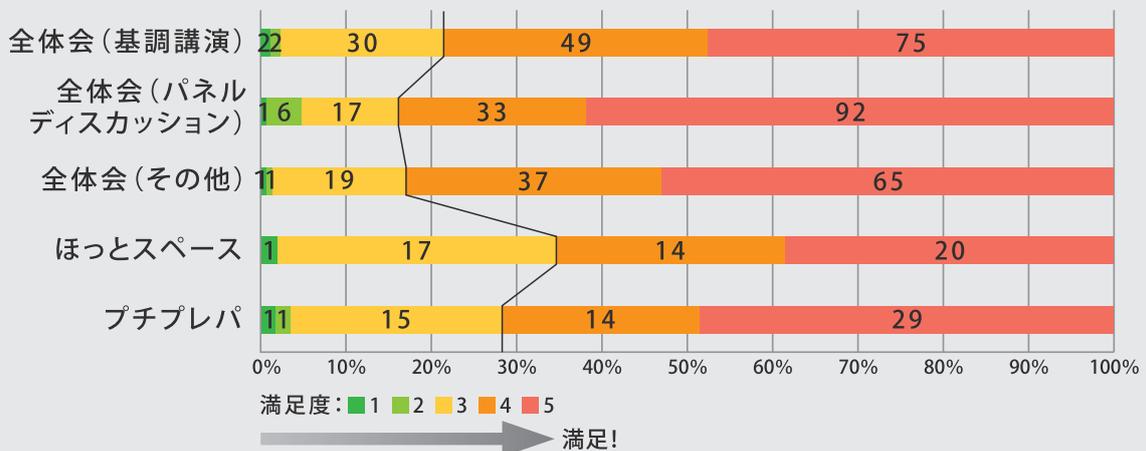


設問 2 - ②. 特に印象に残ったプログラムを選択してください（複数選択可）

- 全体会（基調講演）
- 全体会（パネルディスカッション）
- 全体会（その他企画）
- ほっとスペース
- プチプレパ
- とよたの名産品
- 印象に残ったプログラムはない
- 無回答

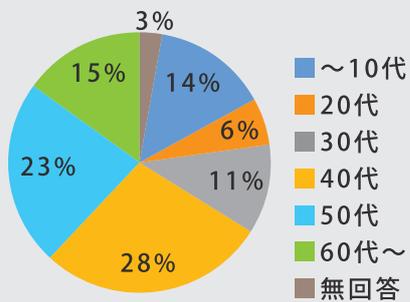
設問 2 - ③. プログラムの満足度をお聞かせください  
(参加していない場合は回答なし)

(単位:人)

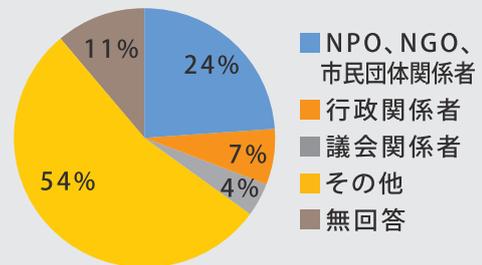


\*「ほっとスペース」: おやかであそぼう! ほっとスペース / 「プチプレパ」: 出張! プチ・プレーパーク

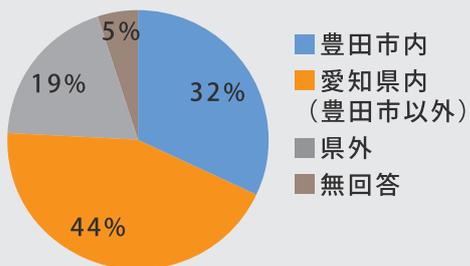
設問1-①. ご自身について  
お聞かせください。(年代)



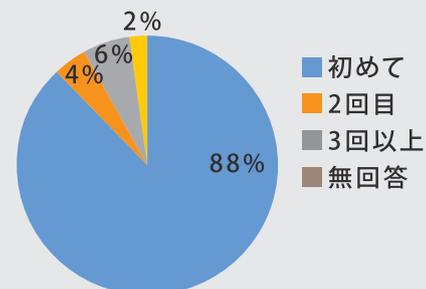
設問1-②. ご自身について  
お聞かせください。(ご所属)



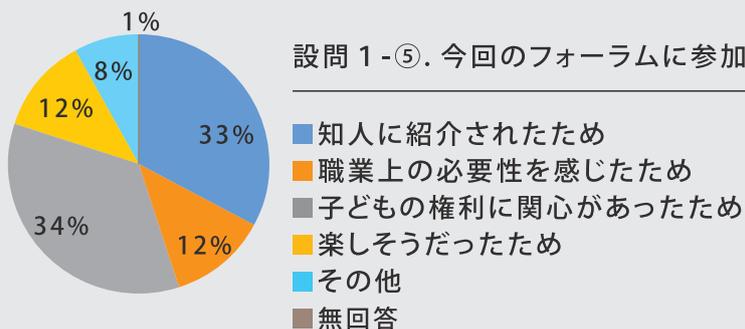
設問1-③. ご自身について  
お聞かせください。(居住地)

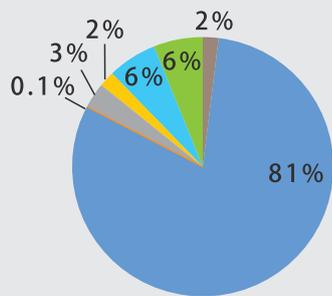


設問1-④. 子どもの権利条約フォーラム  
には何回目のご参加ですか?



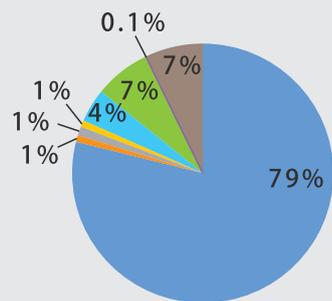
設問1-⑤. 今回のフォーラムに参加したきっかけは何ですか?





設問 2-①. 参加されたプログラムを選択してください (複数選択可)

- 分科会 (現地参加)
- 分科会 (オンライン)
- クロージング
- ほっとスペース
- ゆかいにどんちゃか大道芸
- 子ども発企画
- 無回答

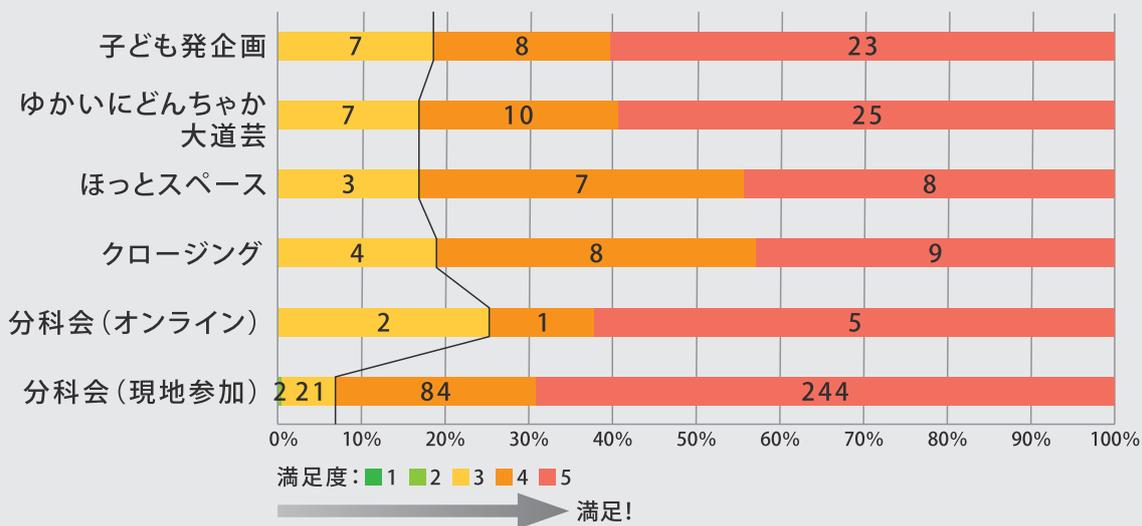


設問 2-②. 特に印象に残ったプログラムを選択してください (複数選択可)

- 分科会 (現地参加)
- 分科会 (オンライン)
- クロージング
- ほっとスペース
- ゆかいにどんちゃか大道芸
- 子ども発企画
- 印象に残ったプログラムはない (回答なし)
- 無回答

設問 2-③. プログラムの満足度をお聞かせください  
(参加していない場合は回答なし)

(単位:人)





## アンケート自由記入より、一部抜粋



### 知ったこと・感じたこと

子どものやりたい環境や、子どもの声を聴くおとなの姿勢（地域社会）があれば、子どもたちの発信力が高まる。

全体会の司会をしてくれた人や、歌、パネルディスカッションでの発言した人たちを見て、引率してきた大阪の初参加の中学生が「自分も出たい！！」と言いました。

私はこう思ってる、と言える環境は、当たり前にあるのではなく、意識して作らないといけない。

自分の意見を持つこと、意見を言うことが自分の権利を使うことという話が印象的だった。

さまざまな子どもたちがいろいろな役割で活躍し、自分の考えをしっかり任されていたことに感動し、将来に希望を持つことができました。

我が子にも良い経験になればと思い参加したが、同世代の子ども達の姿に刺激を受けていたようで、良かったと思いました。

未来は明るい！大人として何ができるか、負けずに考えて頑張りたい。

子どもが言えなくても思っていることがけっこうあるということ。  
その心に少しでも寄り添い、話を聴くという大人の態度の必要性。

学んだこと、出会えた人、てんこもりの素晴らしい会でした。  
子どもは未来。我が子の言葉をもっと聞こう。信じよう。そう思えました。

多くの子どもたちがフォーラムの運営に関わり、主体的に動く姿がとてもステキでした。

昨今、子どもの権利やアドボカシーについて全国でもっと大きく取り組まれている中で、もっともっと多くの子や世代、課題を抱えた子の意見を反映した会だと良かった。

各プログラム、映像、ロビー、全ての所に細やかな心配りを感じる温かさがありました。  
パネルディスカッションの椅子、もうそれだけでうるうる…一人ひとりが違ってそれでいい。  
そのままでも十分交われるし、心を寄せられる。  
子どもの権利条約そのものを具体化したような全体会でした。

権利はあっても自分で「使える」と思い、「使っていていい」と受け入れてくれる環境がないとね。

登壇された子ども達は緊張しながらでも楽しそうでとてもよかった。  
大人主体のフォーラムでは感じることの出来ない、ホッカリとしてあたたかな時間でした。

## 「○○」しようと思ったこと

聞く→しる→伝えるへと変換していきたいと思います。

私ははじめて参加して、もともと権利のことをしていなくて、私のように知らない人にもっと伝えたいと思いました。

日常生活の中で子どもの権利をたくさんみつきたい。

どうせむりだと考えずにもっと話してみよう!と思った!

子どもの小さなSOSに気づける大人をふやす!

「できる」を子どもに知らせようと思った。

自分の子どもたちとの関わりだけでなく、地域の子も達、子どもに関わる人たちの中で、広めていこうと思います。知ることできっと変あるので。私自身もやってみながら変あると思います。

「子ども」ではなく、「一人の人」として接することを実践していきたい。

教員として働いていた者です。子どもたちの切実な願い、考えをなかなか現場では聞くことがなかったので子どもたちの思いを聞いたのがうれしかったです!!(多分、教員と生徒で立場ができてしまうこと、多忙なことが要因だったかと思います。)子どもの思いに応えられる大人になる事、一緒に社会をつくっていくパートナーであり続けたいと思いました。

子どもの生き生きとした姿を見られて、ぜひ自分の地域でもこのような企画をやりたいと思った。

どう相手を尊重していくか、それは仕事の中でも同じだよなと、校則に対する反発に同感な中で仕事で同じような一方的なアプローチをしようとしていたことに気付かされました。変えます。これをきっかけに自分も変あるうと思いました。

## その他のご意見

多数参加にもかかわらず、全体会会場が一つになっていたように感じました。参加者の記念写真撮影スポットがあったらいいなと思いました。

豊田市内にはたくさんの外国と繋がっている子どもたちがいます。この会の案内がいろいろな言語でもつくられていたら、その子たちにも届いたのではないかと思います。

多分ここに参加する人は関心がある人なので、来てない人にこういう場に足を運んでもらうにはどうしたらいいか考えないといけないなと思います。

会場の豊田産業文化センターがテーマパークのようになっていてステキなイベントでした!

子どもの権利条約を小学生くらいのうちにみんなが知る機会があるといいと思います。

# 子どもの権利条約 フォーラム 2023

子どもと大人ど  
楽しむ学ぶ / けん り じょう やく  
inとよた

知って♪感じて♪こどものけんり  
～「知ってる」から「OO」へ～



## 11/25 全体会 演目に関わる方々のご紹介

### [MC (チーム司会)]

本日の全体会は「子どもの声からはじめよう」という思いをもとに、実行委員のメンバーで創り上げました。そこで、実質的な音としても「大人の声」ではなく、「子どもの声」で会を進行するべく、このフォーラムに賛同し、複数人での「チーム司会」の参加募集に応募してくれた4人の子どもたちが司会をつとめます。

### [影アナウンス]

今回のフォーラムでやりたいことがある！と応募してくれた子どもたちのうち、「当日は参加できないけど関わりたい」と言っていてアナウンスを希望してくれた2人の中学生メンバーによる事前録音を放送しています。

### [オープニング]

#### 豊田市少年少女合唱団

豊田市少年少女合唱団は「豊田市民の音楽使節」として、昭和52年8月、公立の少年少女合唱団として発足しました。

「明るく、楽しく、心と心のふれあう市民文化活動のシンボル」となることをモットーに活動し、豊田市に住む小学2年生から二十歳までの97名が在籍しています。

定期演奏会や各種コンサート、地元開催のイベント等にも多数出演。今後は12月24日に「第45回定期演奏会」、来年1月21日にはオーストラリア国立少年合唱団とのジョイントコンサートに出演します。本日は、小学2年生から中学2年生までの団員28名が出演します。



### [ようこそ豊田ムービー]

「豊田市子ども条例」に基づいて子どもの意見や考えを聞くために開催されている「豊田市子ども会議」の「子ども委員」のうち、「I LOVE とよた」チームの子たちが、今回のフォーラムで全国のみなさんに豊田市を紹介したいと考え、制作した動画です。

### [子どもの権利条約に親しむコーナー]

#### こどものけんりフレンズ presents 歌プロジェクト / 親しむムービー

子どもの権利条約フォーラムに向けて、届いた声や自分達の気持ちを歌にするプロジェクトに集まった中高生グループです。メンバーが初めて出会ったのは今年9月半ばのこと。少しずつ互いのことを知りながら、歌詞の言葉を出し合い、1つの歌と動画をつくりました。いろいろな思いを抱えたメンバーも、ここで仲間に出会い、この歌プロジェクトが居場所となっています。

親しむムービーでは「私たちのアクション」として高校生の子が自分の想いを発信しています。



### [事例発表 全国の子どもたちの声を聞こう]

全国で子どもたちが活動をしている団体から、以下の団体の子どもたちが登場します (五十音順)

川崎市子ども会議 / 子どもの権利条約関西ネットワーク / とよま子どもの権利条約ネット /  
豊田市子ども会議 / 名古屋市緑児童館

### [エンディング]

今回のフォーラムに賛同して、うたや手話での参加募集に応募してくれた子どもたちと、豊田市内や周辺地域で子どもの権利をたいせつにしながら活動する大人たちによる以下の団体が、1979 国際児童年につくられた『ビューティフル・ネーム』と、手話歌唱とともにおくる『にじ』を演奏します。

うた・手話隊の子どもたち / とよしバンド with こまぶちピストルズ /  
Kecotico (ケコチコ) / 絵本よみ楽団 猫と子は扉をしめない

1日目・全体会の子ども権利条約に  
親しむコーナーに出演した

歌プロジェクト 歌詞



LOOP

作詞・作曲 歌プロジェクト

いつか思い描いていた 幻想も いつの日か 消えていってしまうの 周回の中に  
自分自身期待してない 周りの目ばかり気にして  
癖になつてく  
続いていく周回に 差した嫌気に 望む退路に 置いた希望に ただひたすらに すぐむ片手を 伸ばしていた

ループして  
ループして  
ループして  
終わる毎日が  
せめて特別な 一日でありますように  
逃げ出して 走り出して 建前的な前進で 立ち止まらないで

不安になること自体  
「これから」があると信じたい 優しい言葉も 何もいらさないよ  
せめて信じてみたい  
高鳴る鼓動に  
乗せて 僕ら歌いだす

ループして  
ループして  
ループして  
終わる人生が これまでのすべてが自分だと思えますように  
いつかの投げ出した  
あの日を 忘れないで

ループして  
ループして  
ループして  
その先で  
笑い合えますように

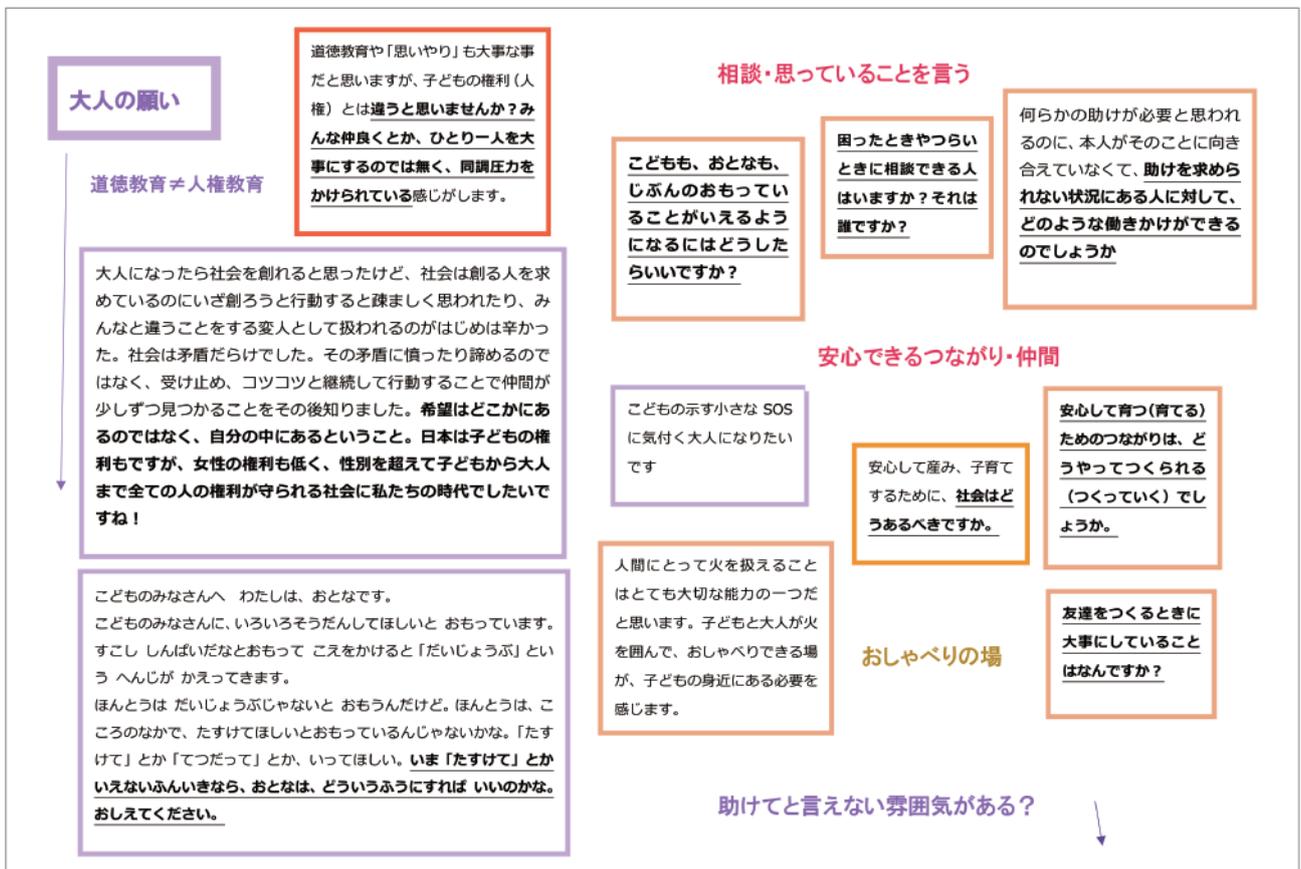
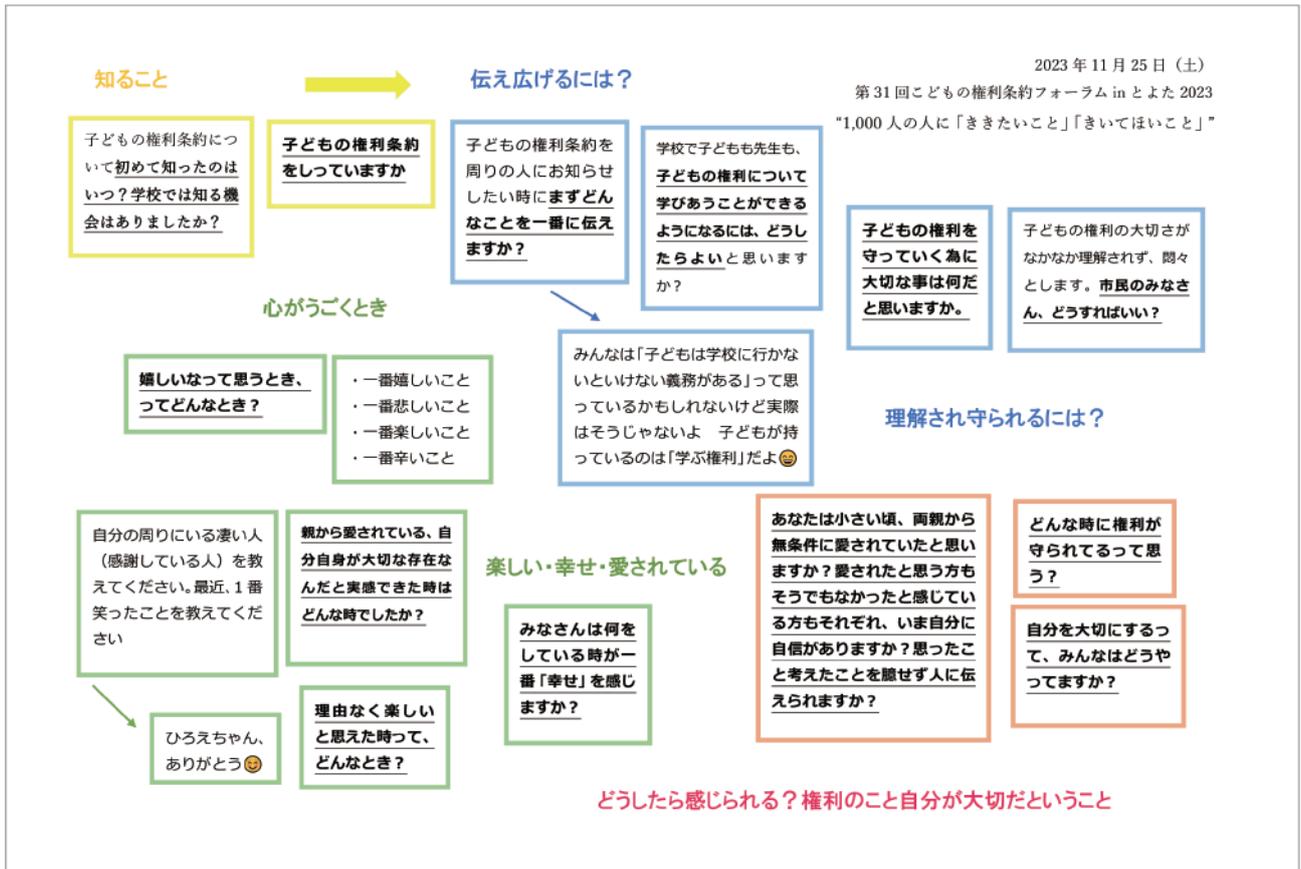


絵：歌プロジェクトメンバー



今フォーラムでは、自分の気持ちや思いを表明・表現できる機会となるよう、“1,000人の人に「ききたいこと」「きいてほしいこと」”を、年齢に関わらず広く募集しました。

この図は、集まった声をパネルディスカッションのファシリテーターが、参考資料としてまとめたものです。(言葉はあえて原文のまま。また印刷の都合上、形が変わらないように作り直しています。)



発達段階に差があるのが当たり前の子どもたちに学校教育の現場で発達障害というレッテルを貼って区別したり服薬を強要することを残念に思っています。

**・車いすに乗っていたり、目が見えない、耳が聞こえないなどのお友達がいますか？**  
**・どんな子どもでも、安心して楽しく学べる学校は、どんな学校だと思いますか？**

保育園幼稚園の一斉保育はなぜなくなるらないのか。**日本の教育はなぜ変わらないのか。**

**あなたは、いじめられている人を見たら、どうしますか？**

福島原発事故後、350人を超える子どもが甲状腺がんを苦しんでいることを知っていますか？  
 チェルノブイリでは世界から支援の手が差し伸べられましたが、**日本では、患者は孤立して声を上げることができません。何故だと思いますか？**

**どんな子どもも楽しく学ぶ**

学校現場で子どもの権利が尊重されますように子どもの“やりたい”だけでなく、やりたくないも尊重されますように私自身も自分の権利、子どもの権利を尊重した暮らしをしていきたいです。

画一的  
↓  
多様化

**子どもが自分らしく幸せに生きていくために必要な本当の学びって何ですか？**小中学生時代の学びがもっともっと自由に多様化することを望んでいます。

**声をあげられる？難しい？なぜ？**

**日本の教育予算は、先進国中最下位レベルなのを知っていますか。**

そのせいで、不登校の小中学生は全国で30万人。身体や心を壊す先生も多く、教職は不人気で人手不足だから、レベルも下がりが気味。一年で2万人の若者が自殺。日本は、そんなひどい国になってしまいました。これって、明らかに教育政策は失敗です。先進国は一クラス定員20人以下が普通。  
 もっともっと、親や子どもたちが声を出さないと改善しません。もっともっと権利を主張してもいいはずなのです。一クラスの定員を減らし、きめ細かく多様な対応が出来る学校を望みます。

**学校にゆとりを！**

**学校を休む時、理由を聞かれるのはどうしてだろう？**

しゆくたいがおおすぎる

**何で学校の入試はくじ引きで決めないのか？**

小学生を育てている母親です。学校では英語やプログラミング、ICTよりも、国語と読書の時間をもっと重視してほしいです。対話で培われる考える力もあれば「あれもこれも」と詰め込まなくても、新しい時代にも生き抜ける子どもが育つと思います。子どもたちの心身と学校の先生の負担を軽くするためにも、学校にもっとゆとりを。

**子どもたちは大人の権利をどう思いますか？**

**大人の権利は？**

**最終学歴はどこまで必要だと思いますか？**理由も教えてください。

子育てをしていると我が子のためにと厳しくした方がよいのか優しくした方がよいのか、家庭に重きを置いた方が子どもが喜ぶのか、私自身のことに重きを置いた方が喜ぶのか等悩んだり迷うことがあります。そこで**子どもが親に望むことは何か聞いてほしいです。**

**子どもが、親とのコミュニケーションで我慢していることは、例えばどのようなことがありますか？**

**親が自分のことで疲れてしまったら困ってたらどう思いますか？**

**親に望むことは？**

**親に対して我慢している？**

**子どもの立場から、どちらのほうが自分のためになると考えますか？**  
 A.毎日決まったお金を、お小遣いとして受け取る  
 B.お手伝いなどをして、その報酬としてお金を受け取る

**どういう大人になりたいですか？**

**子どもの時代に  
子どものうちに**

**子どもたちが希望をもってイキイキ生きられる世界へ…**

子どもたちが希望をもって生きられる世の中にしたいけど、元気がない、疲れておとなは多い。私もその一人です。子どものみなさんの力を借りて、誰もが生きやすい世の中を作りたいです。

**戦争をなくしたい**

**法律で人を殺してはいけないのに、戦争がはじまれば殺しても罪にならないのはどうして？**

世界には戦争や貧困に苦しんでいる子ども達がいる現実もある一方で、日本では違う意味で苦しんでいる子ども達がたくさんいます。命を脅かされずに育つことができるのは当然のことながら、子ども達には大事な子ども時代をイキイキとしてほしいと願っています。

**なんで？**

**なあに？**

**国会議員の給料はなぜあがるの？僕のお母さんはあがってないです。**

**じぶんで、はつめい・はっけんしたあそびはありますか？それは、どんなあそびですか？**

**なんで、僕の友だちたちは、一人で遊びに行ってはいけないうって言われているんだろう？**

**子ども何歳までを  
子どもというの？**

**子どもの未来が明日の社会**

【実行委員会開催スケジュールと大きな流れ】

0	3/2(木)13-15	■各担当顔合わせ、簡単な打ち合わせ 他
1	4/13(木)13-15 産業文化センター (青少年センター交流室)	■過去フォーラムのプログラム共有 ■会場確認 ■協賛金について ■副実行委員長釘宮さん紹介 ■今後の実行委員会時間調整 他
企画	5/13(土) 豊田市福祉センター	午前:プレフォーラム「声をきく活動からみえるこどもたちの今」(高橋弘恵氏) 午後:実行委員・サポーター向け勉強会 他
2	5/18(木)12-14 産業文化センター (青少年センター交流室)	■プレフォーラム(高橋氏)振り返り ■ミニワーク『共通項・大切にしたいことを出そう!』 (全体テーマ策定を意識したキーワードの出し合い) 他
3	6/15(木)12-14 産業文化センター (キラとよ情報交換室)	■『フォーラム2012inあいちの話を聞こう!~高橋さん・本岡さん~』 ■ミニワーク『実行委員会の目指す姿は?私たちのビジョンって?』 他 分科会開催団体募集要項 完成
4	7/13(木)12-14 産業文化センター (TIAラウンジ)	■ミニ勉強会『大谷美紀子氏について知ろう』 ■ロゴの使用 ■必要サポーター数の把握 ■審議決定フローの承認 ■分科会説明会参加状況と会場調整の相談 他
5	8/10(木)12-14 産業文化センター (キラとよ情報交換室)	【★全体テーマ 決定!】 ■呼びかけ団体事務局長林大介さんより(ご挨拶など) ■各チーム希望予算、使用部屋希望(最終提出)→最終調整 他 下旬:分科会開催団体決定
6	9/14(木)12-14 産業文化センター (青少年センター交流室)	■各チーム予算、使用部屋決定 ■各プログラム概案決定 ■一般参加者募集チラシ:掲載内容決定 他 <広報とよた9月号> 追加サポーター・運営に参加したい子ども募集 9/22)一般募集チラシ・ポスター入稿
	中止	10/10)一般参加者募集開始
7	10/12(木)12-14 産業文化センター (キラとよ情報交換室)	■当日パンフレット内容確認 ■サポーター担当振り分け、当日の動き 他 10月下旬)当日プログラム入稿
8	11/9(木)12-14 産業文化センター (青少年センター交流室)	■各プログラム最終確認・調整等 ■運営マニュアル確認 他 11/10)サポーター説明会・打合せ 11月中旬)当日プログラム納品
9	11/21(火)12-14 産業文化センター (青少年センター交流室)	■当日の役割確認、全体の動きの確認 他
10	12/7(木)12-14 産業文化センター (青少年センター交流室)	■フォーラム振り返り 他
企画	2/4(日)14-16 産業文化センター (青少年センター交流室)	『~あなたは、今後はどうつなげる?~フォーラムの振り返りと今後を語る会』 ■ミニ報告タイム ■ミニワーク(自己紹介・感想シェア・今後のこと) 他 ※閉会后、同会場にて希望者で懇親会を実施
11	3/14(木)12-14 産業文化センター (青少年センター交流室)	■交通費精算 ■各団体の活動紹介タイム ■今後について ■ミニワーク「実行委員会に参加しての振り返り」 他 3月下旬)報告書完成

※4月に、会計報告&報告書配布会を実施予定

## 子どもの権利条約フォーラム開催日程・テーマ一覧

条約フォーラム準備のための実行委員会(1993年7月3日)@早稲田大学

- 1.'93「世界の子どもたちの手に条約を」(11月20日・21日)@千代田区
- 2.'94「楽しさ、出会い、気づきのある条約学習」(11月5日・6日)@渋谷区
- 3.'95「市民レベルでの条約実施の検証」(11月18日・19日)@渋谷区
- 4.'96「模擬・国連子どもの権利委員会の開催」(11月9日・10日)@大阪市
- 5.'97in神奈川「地域からの子どもの権利実現に向けて」(11月2日・3日)@川崎市
- 6.'98inふくおか「“人権の木”よ、大きく育て」(11月14日・15日)@春日市
- 7.'99「国・自治体・NGOの対話を求めて」(11月27日・28日)@渋谷区
- 8.2000in群馬「自分らしく生きる権利とは」(11月25日・26日)@高崎市
- 9.2001inあおもり「共生の森へ、こどもとおとなの自分育ち」(11月24日・25日)@青森市
- 10.2002inちば「千葉発『Kid's Right Wave』-子どもと市民の参画で世界が変わる」(12月7日・8日)@千葉市
- 11.2003inかわにし「みんなで話そう・やってみよう“子どもとおとなのいい関係”」(12月6日・7日)@川西市
- 12.2004いばらき「気づきのルール「初めて出会うおとなと子どもが話し合うために」の誕生」(11月20日・21日)@取手市
- 13.2005inしが「子どもに権利を認めるとどうなるか」(12月3日・4日)@近江八幡市
- 14.2006inくまもと「子どもの力をうばうのはだれ?」(11月11日・12日)@熊本市
- 15.2007inながの「僕にだって、言いたいことがある」(11月17日・18日)@諏訪市
- 16.2008inみえ「つながろう 大切なわたし 大切なあなた」(11月23日・24日)@津市
- 17.2009inとやま「今を生きる子どもたちの人権一心の力のみなもとへ」(11月14日・15日)@富山市
- 18.2010inみやぎ「子どものことは子どもに聞こう」(11月13日・14日)@仙台市
- 19.2011in広島「子どももおとなもしあわせなまちづくり」(11月12日・13日)@広島市
- 20.2012inあいち「子どももおとなも一緒により良い未来を創っていこう!」(11月24日・25日)@名古屋市
- 21.2013「批准20年に向けた一歩として」(11月16日・17日)@渋谷区
- 22.2014「批准20年を踏まえてこれからの20年に向けて」(11月16日)@新宿区
- 23.2015in石巻「どこにいてもつながっている」(11月21日・22日)@石巻市
- 24.2016in関西「子どもが変わる・おとなが変わる・しくみは変わる」(12月10日・11日)@大阪市
- 25.2017in信州「信じよう!子どもの力、おとなの心」(12月2日・3日)@茅野市
- 26.2018inとちぎ「おとな、子どもは関係ない!知ろう!聴こう!伝えよう!皆が未来の主人公」(11月3日・4日)@足利市
- 27.2019in東京「みんなで考えよう!「自分らしさ」って何だろう?」(11月16日・17日)@文京区
- 28.2020in南砺「コロナ禍、新たな形を実現」(11月14日・15日)@南砺市
- 29.2021inかわさき「手を取りあってにじいろの未来へ笑顔で歩もう!」(11月6日・7日)@川崎市
- 30.2022in那覇・沖縄「知ってる?あなたとわたしと沖縄の「今」」(12月10日・11日)@那覇市
- 31.2023inとよた「知って♪感じて♪こどものけんり〜「しってる」から「○○」へ〜」(11月25日・26日)@豊田市



## 協賛等企業・団体一覧



### 協賛企業・団体

---

- ひまわりネットワーク株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 一般財団法人善都財団
- 311甲状腺がん子ども支援ネットワーク
- 第一生命保険株式会社豊田支社
- 一般社団法人Re Smile
- 株式会社モダン装美
- ソーシャルゲート
- 明和工業株式会社
- 株式会社明創
- 一般社団法人豊田青年会議所
- ハイリー相談室
- エフ・ピボット有限会社
- 豊田信用金庫
- あいち豊田農業協同組合
- 特定非営利活動法人 月人

### 寄付企業・団体

---

- 明治安田生命保険相互会社
- 株式会社アイサク
- 大東工業株式会社
- 株式会社村上製作所
- 広げよう!子どもの権利条約キャンペーン
- トヨタ生活協同組合

### 協力企業・団体

---

一般社団法人Re Smile、株式会社モダン装美、第一生命保険株式会社豊田支社、明和工業株式会社株式会社アイサク、豊田商工会議所、豊田信用金庫、トヨタ生活協同組合、明治安田生命保険相互会社あいち豊田農業協同組合、一般財団法人善都財団、丸善豊田T-FACE店、おいでん市場、株式会社KADOKAWA株式会社小学館、株式会社白泉社

多くの企業・団体さんにご協賛、ご協力いただきました。  
ありがとうございました。



## 編集後記



編集作業に関することで、フォーラムをより深く振り返ることが出来ました。自分の至らなさと向き合うことも多かったのですが、沢山の方と繋がれたこと、力を合寄せれたことは、私にとってとても大きく、あたたかい経験となりました。

菅井真紀 Sokkaの会

たくさんの熱い思いが集まって、想像以上の大作が出来上がり驚いています！報告書を編集する作業は、フォーラムに携わってきた作業を振り返る時間でもありました。いろいろあったけれど、みなさんとの出会いに感謝です。

鈴木英衣 とよたプレーパークの会

自分の謎のストイックさに気付いたり(笑)と大変な面もありましたが、編集委員は本当にいいチームで、できることは積極的に手を挙げ、大変そうな人には自然と声をかける。その場に居るだけでも認めてもらえる温かい場でした。本当に楽しい時間でした！

田島真実 こどものマイクけんきゅうかい

集まる原稿や声は、関わった方たちに届けたい言葉ばかりでした。それぞれの得意分野を持ち寄り足りない所を補い合う、とても心強く、温かみがあるけれど頼もしい編集委員のみなさん。フォーラムでの出会いと関わり感謝です。

小松昌世 とよたプレーパークの会

チームに加えて戴き、愛と熱意、学びの多い時間でした。報告書は文字として残ることの責任と、次の開催団体へバトンタッチする思いが詰まっています。メンバーに加えて戴き感謝です。

長谷由香 自立生活センター+彩

自分ができただけでいいという安心感の中、楽しく作業をさせてもらいました。報告書を通してフォーラムの全体像が改めて見えてきました。これをスタートとして自分なりの〇〇を継続していこうと思います。たくさんのお会いに感謝🍀

金山紀子 こどものマイクけんきゅうかい

(当日の温かな雰囲気を伝える為に)「絵本を作ったらどう？」の一声を發したら報告書と並行して絵本製作もすることに。紙の中央を切って折るアレは折本と言うそうです。報告書と合わせて多くの方に届きますように。

鈴木牧穂 とよたプレーパークの会

報告書に関わらせてもらった事で、フォーラムの振り返りと、人権についても頭のどこかで考えている感じでした。みんなで話し合い作る場は、子どもの人権のあらわれだったと思います。ありがとうございます。

知念綾子 こどものマイクけんきゅうかい

本当にたくさんの方々が大切にされてきた『想い』=『宝物』が改めて言語・視覚化されていく編集作業は幸せな時間でした。フォーラムで紡がれた『宝物』たちが皆さんの手元に届き、未来に広がっていきますように。

宮川華子 一般社団法人日本こども色彩協会

このフォーラムは当日だけでなく、実行委員会も報告書編集委員会もあたたかい場所でした。子どもと一緒にいつも包み込んでくださりありがとうございました。フォーラムでの思いが沢山の人の届きますように。

秋田真由 つなGO





# 関係団体・実行委員会

## 主催

子どもの権利条約フォーラム2023 実行委員会

## 共催

豊田市

## 呼びかけ団体

子どもの権利条約ネットワーク

## 後援

こども家庭庁、愛知県、愛知県教育委員会、豊田市教育委員会、広げよう!子どもの権利条約キャンペーン、公益財団法人日本ユニセフ協会、豊田商工会議所



## 実行委員会

### 実行委員会構成団体(五十音順)

NPO法人あいちCAPプラス、稲武プレーパーク、一般社団法人いま・ここ、一般社団法人かのこ、子どもの権利条約フォーラムinとうかい、こどものマイクけんきゅうかい、自立生活センター十彩、Sokkaの会、特定非営利法人チャイルドラインあいち、つくラッセル、つなGO、豊田・みよしおやこ劇場、とよたプレーパークの会、一般社団法人日本子ども色彩協会、フリースペースK、包括的性教育研究会にじのわ、一般社団法人三河サドベリースクール・シードーム、森のようちえんてんとうむし、野外保育とよた森のたまご、ゆるっと♡ほけんしつ夢カフェ

### 実行委員

#### ■実行委員長

石井拓児／名古屋大学・豊田市子どもの権利擁護委員

#### ■副実行委員長

釘宮順子／フリースペースK

#### ■副実行委員長・事務局長

安藤順／こどものマイクけんきゅうかい

#### ■監事

長谷由香／自立生活センター十彩

小黑泰之／(一社)いま・ここ

#### ■実行委員

齊藤美紀／NPO法人あいちCAPプラス

三木美波／NPO法人あいちCAPプラス

三浦明美／稲武プレーパーク

安藤さち子／(一社)かのこ

本岡恵／子どもの権利条約フォーラムinとうかい

鈴木佳代／こどものマイクけんきゅうかい

知念綾子／こどものマイクけんきゅうかい

金山紀子／こどものマイクけんきゅうかい

磯村美沙希／こどものマイクけんきゅうかい

中村京平／こどものマイクけんきゅうかい

三橋由佳／こどものマイクけんきゅうかい

猪飼由美子／こどものマイクけんきゅうかい

木村宏江／こどものマイクけんきゅうかい

田島真実／こどものマイクけんきゅうかい

中村栄子／こどものマイクかんきゅうかい

種村香絵／自立生活センター十彩

菅井真紀／Sokkaの会

山本貴美子／Sokkaの会

高橋弘恵／(特非)チャイルドラインあいち

戸田育代／つくラッセル

秋田真由／つなGO

弥田美雪／豊田・みよし おやこ劇場

青木久美／豊田・みよし おやこ劇場

大迫美奈子／豊田・みよし おやこ劇場

滝澤史恵／豊田・みよし おやこ劇場

柴田友彩／豊田・みよし おやこ劇場

小黑敦子／とよたプレーパークの会

小松昌世／とよたプレーパークの会

鈴木牧穂／とよたプレーパークの会

鈴木英衣／とよたプレーパークの会

宮川華子／(一社)日本子ども色彩協会

葛山有咲／包括的性教育研究会 にじのわ

黒柳佐智代／(一社)三河サドベリースクール・シードーム

今村美幸／(一社)三河サドベリースクール・シードーム

有馬直美／森のようちえん てんとうむし

内田公美／森のようちえん てんとうむし

遊佐美絵／野外保育とよた森のたまご

嶋田真紀／野外保育とよた森のたまご

河邊ゆい／野外保育とよた森のたまご

袴着晶子／野外保育とよた森のたまご

今西モト子／ゆるっと♡ほけんしつ夢カフェ

The forum for the Convention  
on the Rights of the Child 2023  
in Toyota

